

(2024年 神奈川県公立入試 類似)

- (2023年 長野県公立入試 類似)

- (2016年 北海道公立入試 類似)

- (2024年 徳島県公立入試 類似)

- (2025年 和歌山県公立入試)

- (2021年 岐阜県公立入試 類似)

- (2020年 新潟県公立入試 類似)

- (2016年 北海道公立入試 類似)

- (2025年

和歌山県公立入試 類似)

- (2020年 愛知県公立入試 類似)

- (2026年

鹿児島県公立入試 類似)

- (2023年 島根県公立入試 類似)

- (2016年 福岡県公立入試 類

- (2017年 富山県公立入試 類似)

- いちごドリルプリント

答え合わせ・解説

問1	答え 4 お雇い外国人	明治政府は「富国強兵」や「殖産興業」をスローガンに掲げ、急速な近代化を図るために欧米から優れた技術者や学者を招きました。彼らは官営模範工場の運営指導、鉄道建設、大学での教育、さらには法令の整備など、多岐にわたる分野で指導的な役割を果たし、日本の発展の基礎を築きました。
問2	答え 4 天候による豊作・凶作の影響を受けずに、政府が安定した税収を得られるようにするため。	江戸時代の年貢制度では、収穫量によって税収が変動するため、政府の予算編成が不安定でした。地価を基準とした定額の金納制度に転換することで、政府は天候に左右されることなく、近代国家の運営に必要な資金を計画的に確保できるようになりました。なお、小作人と地主の関係解消（自作農の創設）は、第二次世界大戦後の農地改革の特色です。
問3	答え 2 領事裁判権を認め、関税自主権がない状態	不平等条約の核心は、日本にいる外国人を日本の法律で裁けない「領事裁判権（治外法権）」を相手国に認め、輸入品にかかる税率を日本が自由に決められない「関税自主権」が欠如している点にありました。
問4	答え 3 五稜郭	戊辰戦争は1868年の鳥羽・伏見の戦いに始まり、東北での戦いを経て、1869年に北海道の函館にある五稜郭で旧幕府軍が降伏するまで続きました。五稜郭は西洋の築城技術を取り入れた星形の城郭で、幕末に北方警備の拠点として造られたものです。
問5	答え 3 欧米列強に対抗できる国力を養うため、軍事や徴税の仕組みを全国で一元化すること	当時の日本は、欧米列強に対抗できる強い国を作る必要がありました。そのためには、各藩がバラバラに持っていた権力を取り上げ、政府が全国の資源や兵力を直接動かせる体制を築くことが不可欠でした。この体制により、徴兵制や地租改正といった全国共通の制度が実施可能となりました。
問6	答え 2 地券を交付された土地の所有者	明治政府は、土地の測量結果や地価を記した「地券」を土地の所有者に発行しました。これにより、誰がその土地の権利を持っているかを明確にすると同時に、地券を保持している「土地の所有者」に納税の義務を課しました。これによって、江戸時代の村単位の納税（村請制）から、個人単位での納税へと近代化されました。
問7	答え 4 秩禄処分などによって生活に困窮した士族に、職と役割を与えるため	明治政府による秩禄処分（家禄の廃止）などで特権を失った士族は、各地で反乱（士族の反乱）を起こすなど社会不安の要因となっていました。屯田兵は、これら生活に困った士族を北海道の警備と開拓に従事させることで、士族の救済と北方の防衛という二つの課題を同時に解決しようとした制度です。
問8	答え 1 対外戦争を行うよりも、国内の産業や制度を整備して国力を充実させるべきである	大久保利通や岩倉具視らは、岩倉使節団として欧米諸国を視察し、その圧倒的な国力を目の当たりにしたため、対外的な武力行使よりも、まずは国内の政治・経済・教育などを整備し、国力を充実させること（内治）を最優先すべきだと考えた。
問9	答え 4 中央集権	廃藩置県は、江戸時代から続いた藩を廃止して全国を政府の直接統治下に置くための改革でした。中央から府知事や県令を派遣することで、軍事や税金の管理権限を中央政府に一本化し、近代国家としての基盤を固める狙いがありました。
問10	答え 3 学制	明治政府は、欧米列強に対抗できる近代的な国家をつくる（富国強兵・殖産興業）ためには国民全体の知識向上が不可欠であると考えました。そのため、1872年に日本で初めての体系的な教育制度を定め、身分や性別に関わらず全ての国民が教育を受けることを目指しました。戦後の教育基本法などと混同しないよう注意が必要です。
問11	答え 2 徴兵令	明治時代、政府は富国強兵を推し進めるために軍制の改革を行いました。それまでの江戸時代では、戦うことは武士という特定の身分にのみ許された特権であり義務でしたが、この法令によって身分を問わずすべての男子が国民として兵役を担う「国民皆兵」の仕組みが整えられました。
問12	答え 2 徴兵令と学制	明治政府は、欧米列強に対抗できる近代国家をつくるため、「富国強兵」のスローガンのもとで大規模な改革を行いました。このうち、国民皆兵の原則に基づき軍隊を組織しようとしたのが1873年の徴兵令であり、国民の知識水準を引き上げるために全ての子供に教育を受けさせようとしたのが1872年の学制です。
問13	答え 3 木戸孝允	日本の歴史上、複数の時代で中央集権化の試みが見られますが、19世紀後半の明治維新期に、西洋の近代国家をモデルにして全国を一括して統治する仕組みを築いたのは木戸孝允です。他の選挙肢は、古代や中世、近世において権力を確立した人物であり、明治維新の改革者ではありません。
問14	答え 4 徴兵令	富国強兵のうち「強兵」を実現するためには、それまでの武士による軍隊ではなく、国民全体から兵士を集める近代的な軍制が必要でした。そこで政府は、教育制度を整える「学制」の翌年にこの法令を出し、国民皆兵の基盤を作りました。